

WEALTH GROWTH「SAMURAI 25」

月間運用実績レポート（2026年9月）

■ パフォーマンス

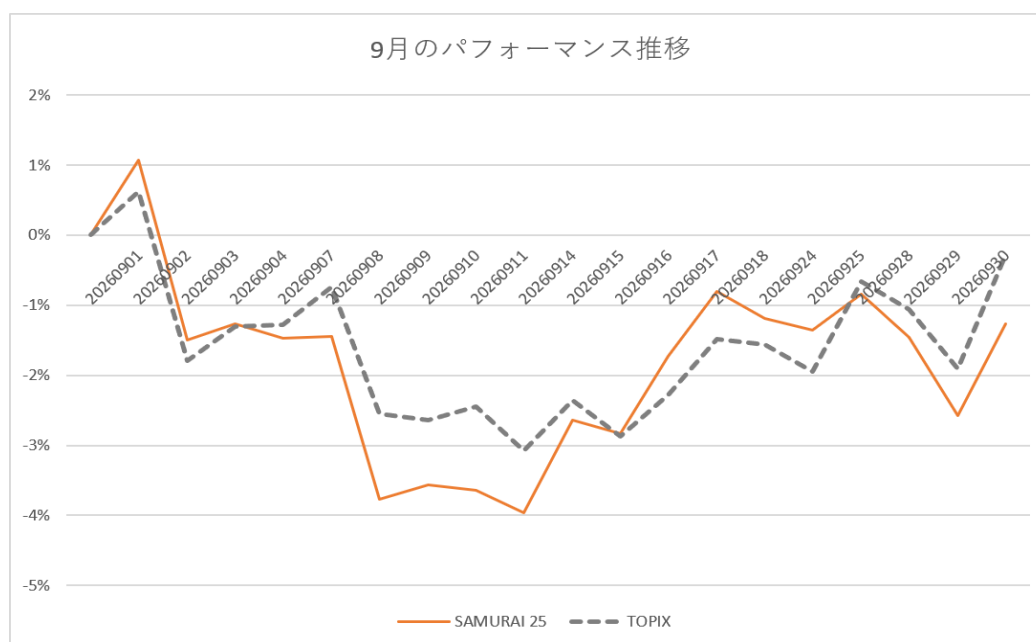
➤ ファンドの月間パフォーマンス

SAMURAI 25	▲1.27%
------------	--------

➤ 各指標の月間騰落率

TOPIX	▲1.15%	(配当込み)	▲0.27%
日経225	+0.67%		
NYダウ	▲4.29%		
S&P500	▲0.45%		
NASDAQ	+1.86%		

➤ 9月のパフォーマンス推移



	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
SAMURAI 25	-1.27%	5.75%	11.65%	31.22%	241.83%
TOPIX	-0.27%	3.79%	18.74%	33.91%	170.09%
超過収益	-0.99%	1.96%	-7.09%	-2.70%	71.74%

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

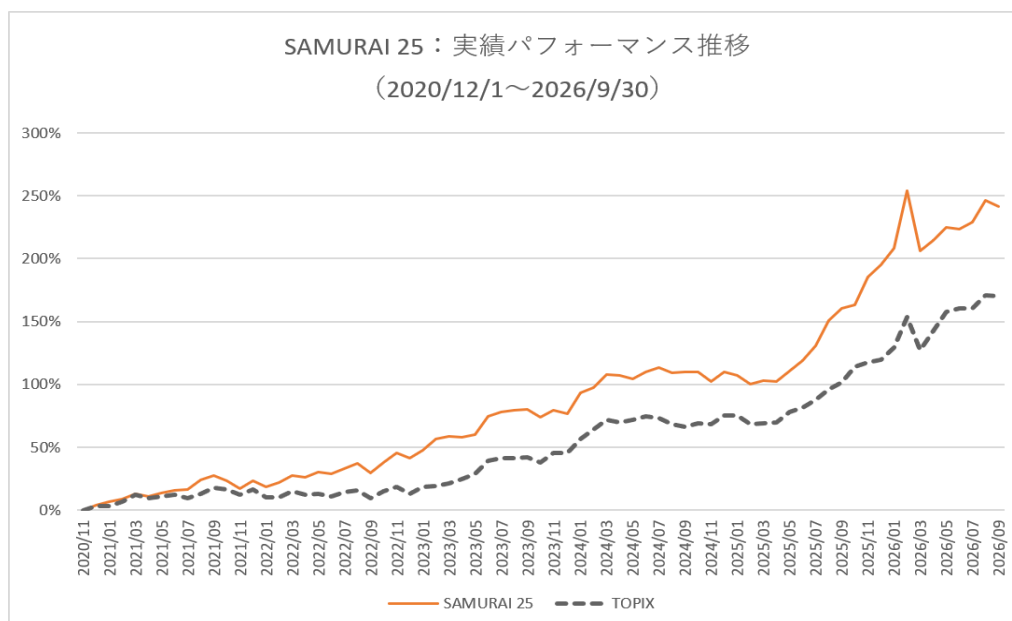
※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

SAMURAI 25の9月の運用成績は▲1.27 %（配当込み）となり、TOPIXは ▲0.27 %（配当込み）、対ベンチマーク比で▲0.99 %となり、ベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

➤ **設定来のパフォーマンス推移グラフ**

SAMURAI 25の2020年12月1日（サービス開始）から2026年9月末までの運用実績です。



運用成績	SAMURAI 25	TOPIX
年間リターン(2021年)	18.73%	12.74%
年間リターン(2022年)	14.59%	-2.45%
年間リターン(2023年)	24.43%	28.26%
年間リターン(2024年)	18.72%	20.45%
年間リターン(2025年)	40.72%	25.46%
年間リターン(2026年)	15.80%	23.06%
累積リターン(2020/12-2026/9)	241.83%	170.09%

リターン（年率換算）	23.46%	18.57%
リスク（年率換算）	14.16%	12.17%
下方リスク(年率換算)	7.42%	6.61%
シャープ・レシオ	1.66	1.53
ソルティノ・レシオ	3.16	2.81

※「SAMURAI 25」は、スマートプラスが提供する他の日本株投資一任運用サービスにおいて、すでに運用実績がある投資戦略に基づく運用手法をもとに開発した運用エンジン「+alpha japan」を搭載したサービスです。運用実績には、「+alpha japan」を採用した他の運用商品による2020年12月～2025年7月までの実績が含まれています。

※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません。

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

※数値は小数点以下3桁目を四捨五入した値を表示しています。

■ 9月の市況概況

➤ 日本市場

9月の日本市場は、国内長期金利が約30年ぶりに3.0%を突破し、日銀が政策金利を1.25%へ引き上げる金融正常化の加速が最大の焦点となりました。為替相場は一時152円台へ急伸後、158円台へ押し戻される乱高下を見せ、自動車等の輸出株も一時影響を受けました。しかし、マイクロン・テクノロジー等の米国半導体関連株の好決算や日本の堅調な企業業績が相場を下支えしました。

・第1週（9月1日～9月4日）／日経225 ▲1.95% TOPIX : ▲1.28%

新発10年債金利が3%到達、日米金利高と原油高で日経平均は一時大幅安

新発10年物国債利回りが約30年ぶりに3%を突破し、概算要求拡大（143兆円）に伴う財政不安が国債売りを招きました。原油高と日米金利上昇を嫌気し日経平均は前日比1,889円安と急落しました。その後、米財務長官の円安是正支持や日銀高田審議員の連続利上げ言及で円高が進む一方、金利上昇一服で日経平均は806円高と反発しました。

・第2週（9月7日～9月11日）／日経225 : ▲1.55% TOPIX : ▲1.83%

一時152円台へ急激な円高進行、日銀の9月追加利上げ観測で波乱展開

上昇から始まるも、日銀の追加利上げ観測や米財務長官発言でドル円が一時152円台まで急騰し、輸出株の業績懸念から日経平均は1,130円安と大幅反落しました。さらに日銀の1.25%への追加利上げ方針報道を受け、日経平均は一時2000円超安を記録し前週に続き大幅安となりました。しかし一方で、7月の景気一致指数の改善など経済の底堅さも確認されました。

・第3週（9月14日～9月18日）／日経225 : +1.57% TOPIX : +1.64%

日銀が1.25%へ追加利上げ決定

日銀は金融政策決定会合で政策金利を1.25%へ引き上げました。しかし、会合での異論存在から追加利上げの連続性に慎重見方が広がり、為替は一時158円台へ急速に円安が再進行しました。これに対し当局はレートチェックで牽制しました。株式市場はアク抜け感や第2次高市改造内閣発足を受け、日経平均・TOPIX共に反発して週末をむかえました。

・第4週（9月24日～9月25日）／日経225 : +2.07% TOPIX : +0.92%

長期金利3.1%台上昇も企業業績が下支え、日経平均は5日続進

連休明けの東京市場は米株高を引き継ぎ半導体株を中心に上昇しました。日米首脳会談で経済安保での連携が確認され、ドル円は158円台後半で推移しました。国内長期金利が一時3.115%と約30年ぶりの高水準を記録したものの、強固な企業業績や割安感の見直しが勝り、日経平均は5日続伸となりました。

・第5週（9月28日～9月30日）／日経225 : +0.59% TOPIX : ▲0.48%

権利落ちで反落も、AI・半導体関連銘柄が牽引

ニデックの巨額減損・不正問題や配当権利落ちが重しとなり下落から始まりました。しかし、OpenAIの資金調達報道によるソフトバンクGの急騰や原油高一服を受け、日経平均は前日比1,272円高と急反発しました。一方、TOPIXは下落となったものの、非AI株への資金循環もあり高値圏を維持しました。

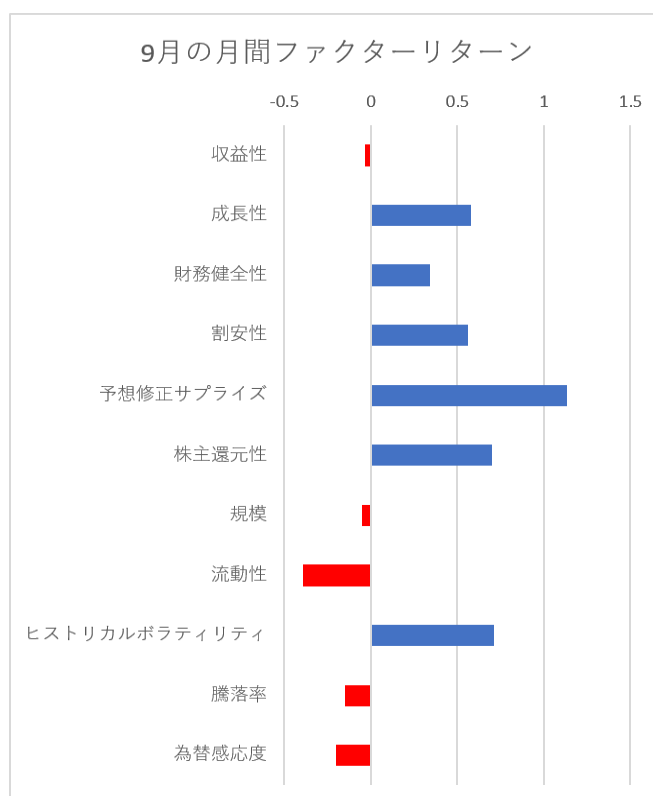
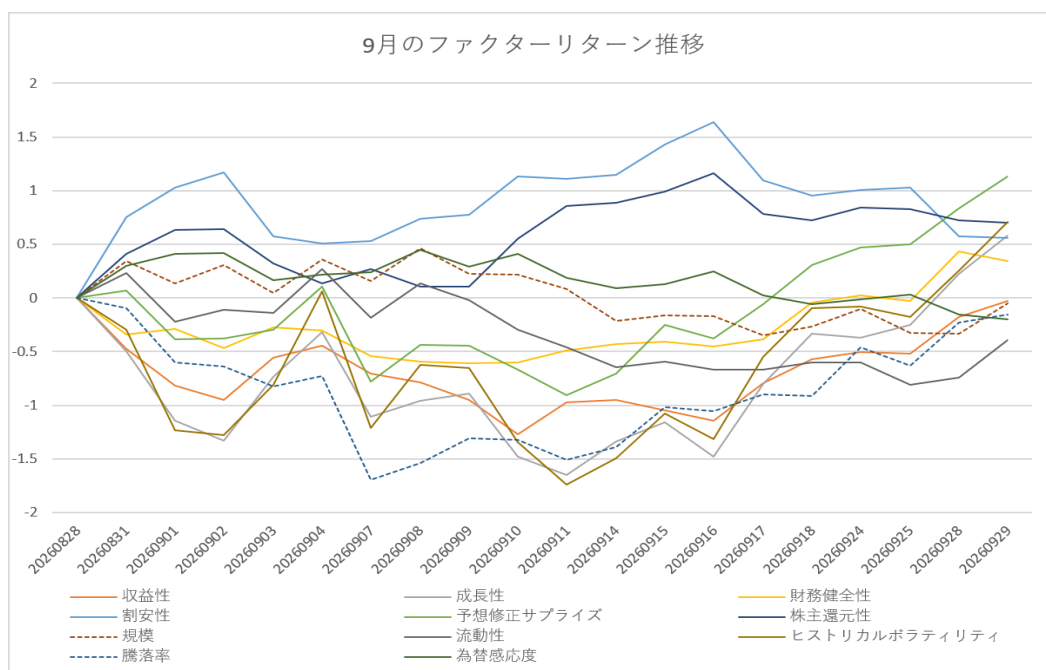
月間パフォーマンスの背景

➤ ファクター動向

9月は、好業績の中小型株が堅調となりました。

ファクターの推移を見ても、予想修正サプライズファクター・株主還元性ファクター・割安性ファクター・成長性ファクターが大きくプラスとなる一方、規模ファクターがマイナスとなりました。

月前半は配当取りが活発化しバリュー株が堅調となり、月末にかけてはグロース株が堅調となるなか、バリュー・グロース問わず好業績の中小型株へ資金が向かったことが見て取れます。



その様な市況環境のなか、SAMURAI 25は、市場平均であるTOPIXをアンダーパフォームする結果となりました。

SAMURAI 25がTOPIXをアンダーパフォームした要因は、

SAMURAI 25が持つバリュー要素の「割安・高配当」特性及びグロース要素の「成長性」特性がプラスに寄与、さらに、市場平均よりも「オーバーウェートしている予想修正サプライズファクター（＝好業績特性）」もプラスに寄与するも、市場平均よりも「アンダーウェートしているヒストリカルボラティリティファクター（＝低リスク特性）」が大きく足を引っ張ったことです。

9月は、米中首脳会談という世界に大きな影響を与えるイベントがあり、市場もこれに注目しました。

会談では米中の融和ムードが演出され、月末にかけては主役級の銘柄に資金が向かいましたが、具体的な内容は伝わってこず、市場のリスクオンムードも継続するかは不透明なところです。

国際情勢はどこへ向かうのか？

気候変動による影響はどうなるのか？

AIは人間を滅ぼすのか？ 等、

これら市場に強い影響を与える不確実な要因を、常に予測することは不可能です。だからこそ、「**予測ではなく、備えることが重要**」になるのではないのでしょうか。

SAMURAI 25は、守りの「高配当・割安」特性、攻めの「高収益・高成長」特性、そして株価の起爆剤（カタリスト）となる「業績上方修正」特性を兼ね備えた、バランスの良いポートフォリオを運用し続けており、価格変動が大きな市場環境において、これまでも実績を残してきました。

バランスの良い「本質的価値のある銘柄群を保有する」という運用哲学を変えることなく、実績ある運用戦略を一貫して行うことが重要と考えています。

➤ 個別銘柄寄与度

寄与度上位5銘柄

No	銘柄コード	銘柄名	組入比率	寄与度
1	1980	ダイダン株式会社	3.8%	0.323%
	「光と空気と水のエンジニアリング」を掲げる総合設備工事の老舗企業。空調、電気、給排水衛生設備工事を軸に、高度な環境制御技術を強みとしています。AI・DX化に伴うデータセンターの建設ラッシュや、国内での半導体工場新增設、医療・医薬関連施設の設備更新需要が強力な追い風となっています。データセンターや半導体分野という国策的テーマへの直結、受注残高の高水準維持、施工効率化による利益率改善が非常に高く評価されています。			
2	6958	日本CMK株式会社	3.1%	0.122%
	プリント配線板（PCB）の大手専門メーカー。特に車載用プリント基板に強みを持ち、世界の自動車メーカーや電装品メーカーに供給しています。車載機器の電子化やEV/HEV化の伸長を受け、高多層板などの高付加価値基板の需要を取り込んでいます。直近の業績では、原価低減や価格改定が進んだことで通期の経常利益予想が上方修正されるなど、利益面での持ち直しが見られます。			
3	6473	株式会社ジェイテクト	5.7%	0.077%
	トヨタグループの大手機械・自動車部品メーカー。自動車用ステアリング（世界トップクラス）や軸受（ベアリング）、工作機械を主力としています。自動車生産の回復や徹底した原価低減などの構造改革が実を結び、営業利益・純利益ともに急回復の局面を迎えています。電動化（EV/HEV）に対応した高機能軸受や超小型駆動ユニットの開発・供給を推進中です。			
4	8707	岩井コスモホールディングス株式会社	6.2%	0.067%
	関西を基盤とする中堅証券グループ（岩井コスモ証券の持株会社）。対面営業とオンライン取引を融合させた営業スタイルに特長を持ちます。新NISA制度の浸透や国内株式市場の活況を背景に、売買手数料や投資信託の受入手数料が堅調に推移しています。強固な財務基盤（高自己資本比率）と安定した配当方針が評価されています。			
5	8609	株式会社岡三証券グループ	3.3%	0.005%
	独立系証券大手（岡三証券などを傘下に持つ持株会社）。対面での資産形成コンサルティング営業を核に、ネット取引（岡三オンライン）も展開しています。株式市場の取引活況や個人投資家の資産形成需要（新NISA）が大きな追い風となり、直近の決算では純営業収益・各利益ともに前年同期比で大幅増を記録するなど好調な滑り出しを見せています。自社株買いや増配など、株主還元姿勢も強めています。			

■SAMURAI 25の目的・特色

1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、TOPIXを凌駕するパフォーマンスを目指します。

2. 戦略の特色

特色 1：市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います。

特色 2：東証プライム市場に上場する約1,600銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します。

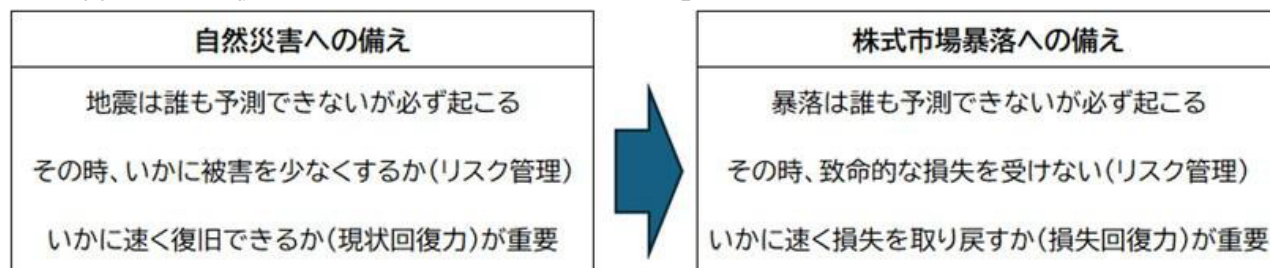
特色 3：銘柄選択において、「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」のバランスの良いモデルを活用します。

特色 4：組入れ銘柄数は20～25銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクはTOPIX ±15%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

3. 戦略のコンセプト

・SAMURAI 25のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていけば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化

ソルティノ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。
計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

「高収益・高成長」×「財務健全」×「割安・高配当」×「好業績」

4. ファクターの説明

SAMURAI 25は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	財務健全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
4	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
5	予想修正サプライズ	経常利益修正率、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	規模	上場時価総額、等
8	流動性	売買代金20日平均、等
9	ヒストリカルボラティリティ	ヒストリカルボラティリティ60日、等
10	騰落率	60日騰落率、等
11	為替感応度	ドル円に対する感応度

5. リスク管理

SAMURAI 25は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています
- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています

以上

※本レポートは、2026年 10月8日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

免責事項

ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

<業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

重要事項

<手数料など諸費用について>

「WEALTH GROWTH」をお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、株式会社スマートプラスが電磁的方法等によりする契約締結前交付書面等にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式または日本株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご確認ください。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国または日本の上場株式（コースにより異なります。以下、「上場株式」という。）は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】（米国株式コースおよび米ドル預かり金のみ）

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式および米ドル預かり金（以下、「米国上場株式等」という。）は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式等の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

【投資一任契約の媒介業者】

Ｊトラストグローバル証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号 貸金業者登録番号 東京都知事(2)第31946号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、日本貸金業協会会員 第006278号

【口座管理機関】

株式会社スマートプラス

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号

加入協会:日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会